細川 圧巻2発 全セ勝利

オールスター第2戦

6回、逆転２ランを放つ全セの細川

プロ野球のオールスターゲームは29日、富山市民球場で第2戦が行われ、全セが全パに8－7で勝ちました。対戦成績は全セの82勝94敗11分けとなりました。

試合は両チーム合わせて36安打の打撃戦となり、全セは6－7の六回に細川（中日）が逆転2ランを放ちました。全セの高橋（阪神）、全パのエスピノーザ（オリックス）の両先発は2回無失点の好投。細川は2本塁打を含む3安打3打点の活躍で、最優秀選手（MVP）に選ばれました。

試合前の本塁打競争は、決勝で細川が佐藤（阪神）を破って優勝しました。

セ、パ両リーグは31日に再開します。

◇全パ－全セ第2戦（1勝1敗、通算全パ94勝82敗11分、富山アルペン）

全セ	0	0	3	1	2	2	0	0	0					8
全パ	0	0	4	2	1	0	0	0	0					7

▽勝　清水1試合1勝
▽S　岡本1試合1S
▽敗　椋木1試合1敗
▽本塁打　佐藤2号①（高橋光）細川2号①（高橋光）3号②（椋木）柳田1号③（遠藤）レイエス1号①（清水）

全セ・藤川監督　セ・リーグの面目を保つことができた。ベンチでみんなが、どうしても一つ勝たなければという思いがあったので、全員でたたかって勝てたのが本当にうれしい。

大谷23号 岡本24号

大リーグ

【ロサンゼルス＝時事】米大リーグは28日、各地で行われ、ドジャースの大谷はマリナーズ戦に1番指名打者で出場し、一回に23号先頭打者本塁打、四回と九回には適時打を放ち、4打数3安打3打点をマークしました。チームは6－7で惜敗。

ブルージェイズの岡本はナショナルズ戦で四回の一塁守備から途中出場し、五回に24号ソロを放って2打数1安打1打点。チームは6－8で敗れました。

ホワイトソックスの村上はヤンキース戦に2番一塁で出て、四回に二塁打を放ち4打数1安打。チームは2－3で競り負けました。カブスの鈴木はカージナルス戦に2番右翼で出場し、5打数3安打2打点。カブスは10－2で快勝しました。

大谷投球再開未定

ドジャース

【ロサンゼルス＝時事】米大リーグ、ドジャースのロバーツ監督は28日、ロサンゼルスの本拠地で取材に応じ、左膝に炎症を抱えている大谷の投手復帰について、投球再開の見通しが立っていないことを明らかにしました。22日に投球練習を行いましたが、25日に予定されていたブルペンでの練習を取りやめていました。

大谷は3日のパドレス戦を最後に登板がありません。監督は「彼は先発投手なので、積み上げの期間が3～5週間途切れてしまうと、また最初からつくり直さなければいけなくなる」と述べ、なお時間を要する可能性を示唆しました。

28日のプロ野球

◇全セ－全パ第1戦（全パ1勝、通算全パ94勝81敗11分、東京ドーム）

全パ	0	0	2	0	1	0	1	3	0					7
全セ	1	1	0	0	0	0	0	0	3					5

▽勝　平良1試合1勝
▽S　藤平1試合1S
▽敗　大野1試合1敗
▽本塁打　佐藤1号①（伊藤）細川1号①（伊藤）西川史1号②（松山）村林1号①（松山）大山1号②（横山）

全米テニスでタッグの2人

錦織 〝感謝しかない、楽しんで〟

記者会見の場で撮影に応じるテニスの錦織圭（左）と大坂なおみ＝26日、米ワシントン（時事）

大坂 〝彼に憧れ、打ち方学んだ〟

【ワシントン＝時事】今季限りで現役を退く男子テニスの錦織圭（ユニクロ）にとって引退表明後初の公式戦となったムバダラDCオープン（米ワシントン）は、女子も同時開催。元世界ランキング1位の大坂なおみ（フリー）がエントリーしています。開幕前に、錦織、大坂の順で設定された記者会見の場で2人がそろい、写真撮影の時間が設けられる一幕がありました。

大坂は敬意を持って言います。「彼に憧れて育った。とても長い期間、最高峰のレベルで日本を代表してきた」。バックハンドやリターンの打ち方は学びとなりました。初対面の際に、既に自分のことを知ってくれていたのはうれしい驚きだったそうです。互いにけがなどで実戦から離れた時期もあります。「兄のような存在。一緒の大会に出られるのは本当に特別」と実感を込めます。

約1カ月後にはタッグを組む姿が見られそうです。全米オープンで8月下旬に予選と本戦が行われる混合ダブルスのエントリーリストに、錦織と大坂のペアが名を連ねました。

全米は両者にとって意義深い大会。シングルスで錦織は2014年に準優勝し、大坂は18年、20年と2度制覇しました。錦織は「なおみちゃんのおかげで、感謝しかない。楽しんでやりたい」。混合ダブルスの準備に充てられる時間は多くなさそうですが、「1回ぐらい練習したい」と言います。自身にとって最後の全米オープンを心待ちにしています。

負傷の若隆景 リハビリ開始

大相撲

左太ももを負傷し、大相撲名古屋場所を全休した関脇若隆景が、リハビリを始めたことが29日、分かりました。師匠の荒汐親方（元幕内蒼国来）が明かしました。弟子は帰京しており、「歩くことは普通に歩けている。負担をかけると再発の可能性がある。慎重にやるしかない」と述べました。

場所前の出稽古で違和感を訴え、緊急搬送されました。師匠は、対応が「あと1時間半、2時間遅れていれば、脚を失う可能性が高かった」と神妙な様子で振り返りました。15日に病院で会い、「リハビリを頑張ります」と意欲を示したといいます。

日本相撲協会には、左太ももの「外傷性コンパートメント症候群」で2カ月の加療安静を要するとの診断書を提出しました。

丹治ら新十両

日本相撲協会は29日、大相撲秋場所（9月13日初日、東京・両国国技館）の番付編成会議を開き、丹治（たんじ）＝20、本名丹治純、福島県出身、荒汐部屋＝と時不動（ときふどう）＝22、吉井虹、静岡、時津風＝の新十両昇進を決めました。

再十両は生田目（なばため）＝24、生田目竜也、栃木、二子山＝。

米プロリーグ 山本デビュー

バスケット女子

【ニューヨーク＝時事】バスケットボール女子の米プロリーグ（WNBA）のラスベガス・エースズに入団した山本麻衣が28日、本拠地で行われたポートランド・ファイア戦でデビューしました。途中出場で3分10秒プレーし、シュートを1本放って無得点でした。チームは98－83で勝ちました。

26歳の山本は日本のWリーグ、トヨタ自動車で活躍し、2024年パリ五輪にも日本代表の主力として出場したガード。WNBAでプレーした日本選手は、萩原美樹子、大神雄子、渡嘉敷来夢、町田瑠唯に続いて史上5人目となりました。

米挑戦3季目 河村抱負語る

NBA

米プロバスケットボール協会（NBA）のブルズで昨季プレーした河村勇輝（25）が29日、東京都内で取材に応じ、米挑戦3季目に向け、「僕にとって大事なシーズンになる。この夏は毎日練習に取り組みたい」と抱負を語りました。

NBA球団との本契約を目指す河村は今月、ネバダ州ラスベガスで行われたサマーリーグにペーサーズの一員として参加。現在は所属先未定で、トレーニングに励みながらオファーを待っています。

仏代表監督にジダン氏就任

サッカー

【パリ＝時事】フランス・サッカー連盟は28日、代表監督に元同国代表MFのジネディーヌ・ジダン氏（54）が就任すると発表しました。契約期間は2030年の次回ワールドカップ（W杯）終了まで。ジダン氏は同日にパリ市内で行われた記者会見で「フランス代表の仕事は私が唯一、望んでいたものだ」と語りました。

1998年W杯フランス大会で母国を初優勝に導いた英雄は2006年に引退し、監督としても実績十分。レアル・マドリード（スペイン）を率いて欧州チャンピオンズリーグ3連覇を達成しました。「この4、5年でクラブから監督のオファーもあったが、フランス代表のために断った」と笑みを浮かべました。

4位で終えたW杯北中米3カ国大会後、14年間務めたディディエ・デシャン監督が退任しました。

★**男子エペの日本、初戦敗退**　フェンシングの世界選手権は29日、香港で団体2種目が行われ、男子エペで昨年優勝の日本（加納、山田、松本、浅海）は初戦の2回戦で英国に44－45で競り負けました。女子サーブルの日本（江村、尾崎、金子、佐野）は5位。準々決勝でハンガリーに36－45で敗れ、順位決定トーナメントでイタリアとウクライナに勝ちました。（時事）

きょうのスポーツ

◆総合＝全国高校総合体育大会（17時、滋賀・平和祭HATOスタジアムほか）◆ラクロス＝女子世界選手権（9時、東京・大井ホッケー競技場）

ホイッスル

サッカーのカボベルデ代表でGKボジーニャ選手（40）がチリの強豪クラブ、コロコロへの移籍が決まりました。ワールドカップ（W杯）の1次リーグでは、優勝国スペインを相手に27本のシュートを受けながらゴールを許さないなど注目を集め、大会ベストイレブンにも選ばれました。

子どものころは、母親が長時間労働、父親は兵役で祖父母に育てられました。年上と路上でサッカーをすると、負けるのが嫌で家に帰ってしまうことも。そしてボジーニャ（おばあちゃん）という愛称が生まれたといいます。

W杯という大舞台での活躍が、小国の路上から始まった一人の選手の可能性を世界へと広げた象徴的な移籍と言えそうです。

おはよう ニュース問答

初の東南アジア友好協力条約（TAC）締約国会議に参加した各国・地域機構の外相ら＝24日、マニラ（ロイター）

TAC50周年 世界人口４分の３地域まで広がったね

のぼる　東南アジア友好協力条約（TAC）の加入国が、世界人口の4分の3の地域にまで広がったよ。

晴男　締結50周年の記念式典と初の締約国会議が、24日にフィリピンで開かれた。

のぼる　TACは武力による威嚇と武力行使の放棄を約束する条約だよね。

徹底して非軍事

晴男　国連憲章にも同じような条項がある。一方で、平和を脅かしたり破壊したりする国に対しては、国連が軍事行動を取ることができる条項もある。

のぼる　TACは軍事行動という対応はせず、交渉、仲介、調停など、徹底して非軍事的な方法で解決を追求するのが特徴だね。

晴男　1976年に東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国がTACを締結した。米国によるベトナム侵略戦争が75年に終わった直後で、東南アジアに永続的な平和を築くことが目的だから、絶対に武力に訴えないことが大原則だ。

のぼる　その後、東南アジア以外の国や地域機構もTACに加入できるようになった。今では日本、米国、中国、ロシア、フランス、ブラジル、南アフリカなど、いろんな地域の国が加入している。

晴男　東南アジアは経済、安全保障で重要な地域だから、多くの国が関係を深めたい。2005年に始まったASEAN各国と日米中ロなどによる東アジアサミットでは、ASEANがTAC加入をサミットへの参加条件にした。

友好協力を促進

のぼる　TACは武力行使放棄のほか、主権の相互尊重、内政不干渉や、経済、文化、科学などの協力促進を盛り込んでいる。

晴男　つまりASEAN各国は、TAC加入が東南アジアをはじめとする地域の平和維持に協力し、友好協力を促進する約束だとして重視している。

のぼる　TAC加入国の中には、米国やロシアのように戦争を続けている国もある。残念なことに、去年はASEAN加盟国のタイとカンボジアが国境紛争で武力衝突した。

晴男　締約国会議でASEAN議長国フィリピンのラザロ外相は、永続的な平和に向けた努力を世界各国、各地域で続けることを「私たち全員の責任」だと呼び掛けた。全てのTAC加入国が平和構築に向けて責任を果たすべきだ。

〔2026・7・30（木）〕

将棋第57期 新人王戦

（3回戦　第2局　第3譜）

先▲四段 片山史龍（東京出身 21歳）
△四段 吉池隆真（東京出身 21歳）

▲4六角　△7三桂
▲6九玉　△9四歩1
▲9六歩　△7一金1
▲5八金1　△5二玉
▲6六歩　△5四歩1
▲6七金右　△8一飛1
▲7九玉1　△1四歩
▲8八玉46　△4二角11
▲5五歩　△同歩13
▲3五歩32

（指し手39手）
持ち時間各3時間
消費▲1時間22分　△31分

（指始図は△7四歩まで）
△香　△桂　△歩　▲香　▲桂　▲銀　▲金　▲角　▲歩

連勝後の連敗

昨譜は吉池の話をしましたので、きょうは片山の話を少し。

片山は昨年の10月1日、吉池の1年遅れで四段に昇段。デビュー後、いきなり7連勝と快進撃を記録します。その中には、盤側が観戦した今期の新人王戦の2回戦（本局の前）、対野原未蘭女流二段戦や、福間香奈女流五冠が挑んだ棋士編入試験の対局もあります。

片山史龍四段

最近の新四段はすごいネと思うのですが、しかし、その後、5連敗。どうしちゃったのかしらネと思うワケですが、そうした状況で本局を迎えていますので、悪い流れを止めたいところではないかしらン。

前局に負けてから約3週間後の本局。途中にゴールデンウイークもありましたから、気分転換でもしたかもしれません。連敗は気にせず、盤に向かっていることを祈るばかりです。

さてさて、そんな話をしている間に、将棋は予想どおり相居飛車戦となり、戦法は片山の矢倉に吉池の雁木模様に進行しました。

指始図から▲4六角が片山の作戦で、この飛車取りに吉池がどう受けるかを見て、その後の対応を考えようということ。吉池は△7三桂と受け、数手後△5二玉と中住居に。また、△8一飛と引き、右玉の含みも持たせます。（蝶谷初男）

（指始図は△7四歩まで）
△香　△桂　△歩　▲香　▲桂　▲銀　▲金　▲角　▲歩

（指一図は▲3五歩まで）
△香　△桂　△歩　▲香　▲桂　▲銀　▲金　▲角　▲歩

■藤井と広瀬が挑決進出 ―将棋王座戦

将棋の伊藤匠王座＝叡王と合わせ二冠＝への挑戦権を争う第74期王座戦挑戦者決定トーナメント準決勝の丸山忠久九段―藤井聡太六冠戦が24日に東京将棋会館でおこなわれ、藤井六冠が勝ち挑戦者決定戦進出を決めました。

棋界メモ

藤井六冠は前期五番勝負で失ったタイトルの奪還へ向け挑戦権獲得をめざします。

一方の準決勝で初の挑決進出を決めている広瀬章人九段と藤井六冠による挑決は8月5日に同所でおこなわれます。

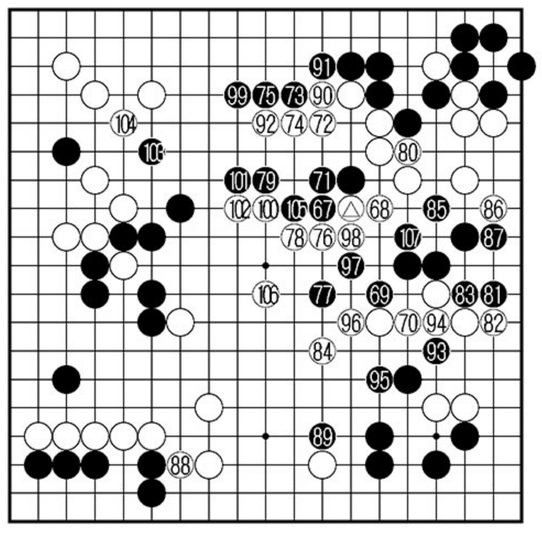
［2026・7・30・木］

囲碁第51期 新人王戦

（2回戦　第4局　第6譜67～107）

黒　四段　加藤千笑（岐阜出身 24歳）
白　三段　田中佑樹（東京出身 20歳）

（各3時間持ち、△は前回最終手）



やや白もちの形勢

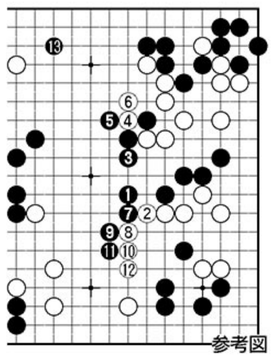
右辺の競り合いにおいて実戦黒71までの進行は黒が最大限頑張った打ち方で、穏やかに打つなら参考図黒1以下13の進行も一案だったか。

白72と退路を確保していく田中を横目に、加藤は黒73、75と地で頑張る。それならばとばかりに白76から田中は右辺黒と中央右あたりの黒三子を分断しつつ中央に顔を出していき、なにやら激しくなりそうな雰囲気が漂ってきた。

右上白一団は白106まで中央にはっきり顔を出し、右辺黒は黒107で完全に二眼を得てここで右辺の攻防は一段落となった。この結果は「ほぼ互角ながら現状はやや白もちの形勢かと思います。ただ、黒の加藤四段は後半戦が得意ですから、まだまだ勝負は全く分かりません」と解説の寺田柊汰三段。

両対局者は過去に一度（昨年9月）第64期十段戦で対戦があり、その時は田中が勝利を収めている。手番は今回と同じく加藤黒番で田中白番、対局場も中部総本部という同一ぶりだ。加藤としてはここでぜひともリベンジを果たしたいところだろう。（石井耕司）

（消費▽黒2時間18分▽白1時間45分）


参考図